

第8回推進会議結果のまとめ

5月21日（水）に行われた第8回南三陸町復興計画推進会議の討議結果をご報告します。今回は、平成25年度提言・要望の進捗状況の報告と、町の住まい・暮らしの状況と課題についてグループ討議が行われました。

1. 平成25年度提言・要望の進捗状況の報告(要旨)

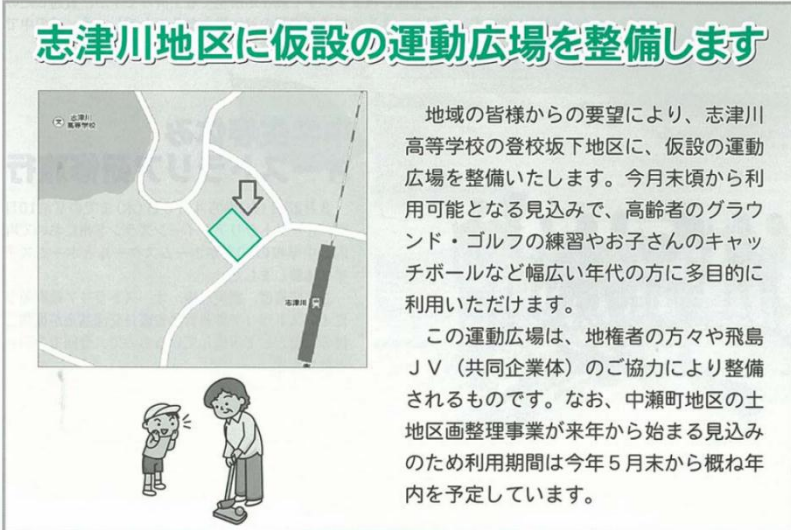
1. 町からの進捗状況の報告

- ・すぐに対応できるものと、中長期的に検討していかなければならないものがある。
- ・グラウンドゴルフに関する提言を受け、地権者の方や志津川地区で工事をしているJVの協力により、志津川高校の下に仮設の運動広場を整備して頂いているところであり、5月末くらいから利用できる予定である。
- ・仮設運動広場の開設について、「広報みなみさんりく」でアナウンスをしている。
- ・利用期間は概ね年内で、利用方法については委員を中心に検討して頂いているところであり、推進会議においても検討をお願いしたい。
- ・他の提言や要望については、明確な方針が出次第、推進会議で報告していく。

2. 委員からの報告

- ・環境が悪い中、早速、仮設運動広場を提供してもらい、非常に感謝している。
- ・利用期間が年内のため、細かいルールは必要がないと考えている。昼間はグラウンドゴルフ協会の人に主体的に使ってもらい、夕方は子供たちがキャッチボールや体を動かしたりできればいいと考えている。
- ・物を置く場所やベンチは、徐々に皆で作っていけば良い。貸し出しの用具は、生涯学習課やポータルセンターに置いて、問い合わせがあった時に利用するかたちがいいと考えている。
- ・PRしてもらい、いろいろなところから地元の人達と交流できるようになればなおさら良い。

図表 広報みなみさんりく 平成26年5月号



志津川地区に仮設の運動広場を整備します

地域の皆様からの要望により、志津川高等学校の登校坂下地区に、仮設の運動広場を整備いたします。今月末頃から利用可能となる見込みで、高齢者のグラウンド・ゴルフの練習やお子さんのキャッチボールなど幅広い年代の方に多目的に利用いただけます。

この運動広場は、地権者の方々や飛島JV（共同企業体）のご協力により整備されるものです。なお、中瀬町地区の土地区画整理事業が来年から始まる見込みのため利用期間は今年5月末から概ね年内を予定しています。

2. 各グループの討議結果

1) グループAの発表内容（要旨）

1. 仮設運動広場の利用ルールについて

- ・ 仮設トイレを要望したい。トイレの清掃など、利用者がうまく使えるようなルールが必要ではないか。
- ・ ここがどのような場所かが分かるような看板が必要ではないか。
- ・ 利用の連絡窓口の設定や、利用時間の調整をすることも必要になってくる。
- ・ ベンチや日除けが必要であるが、材料があれば皆で作ることを考えてもいいのではないか。
- ・ 花火、バーベキュー、たばこの投げ捨てなど、禁止事項を決めておく必要がある。
- ・ ○○グラウンドというネーミングをして、広場整備に協力して頂いた方に感謝の意を表することも考えてはどうか。

2. 町の住まい・くらしの状況と課題について

- ・ 買物をする店がなく、高齢者には大変なため、生鮮品を買えるスーパーが必要であり、少し時間がかかるかもしれないが、土地利用が進んできたときの個々の店舗に期待したい。
- ・ 高齢者の入院や通院が大変な状況が続いており、医療施設と団地をカバーする需要に合った運行ができるような暮らしの足があるといいと思う。
- ・ これからのコミュニティをどう育てていくかが重要であり、顔が見える介護などを通じてコミュニティを育てていくことなどが考えられる。
- ・ 若い人の就業の場の確保や、消防への対応も必要でないか。

2) グループBの発表内容（要旨）

1. 仮設運動広場の利用ルールについて

- テントや道具を保管できるプレハブか物置の設置を町にお願いしたい。
- 半年くらいしか使えないことを見越して、移動が可能なベンチがあってもいいのではないか。
- 町が仮設トイレを設置することが難しいのであれば、〇〇建設さんから1基か2基お借りして、その手入れや清掃は利用者やグラウンドゴルフ協会が中心になってすれば良いと思う。メンテナンスの費用は町に負担してもらいたい。
- 利用時間の調整は、公民館や体育館の予約と同様に、ベイサイドアリーナにお願いするのも一つの方法ではないか。
- 平日の午前中くらいまではグラウンドゴルフ協会が利用し、午後は、放課後に子供たちに使ってもらうような時間差での調整ができればいいと思う。
- 使い方のお願いや注意を促す看板とともに、スケジュール板を設置して予定を書き込む方法もいいと思う。
- キャッチボールやサッカーなど、協議を限定せずに誰もが利用できるようにしておく、バットを振り回すなどの危険を伴う行為は禁止することも必要ではないか。
- 〇〇という名前を付けるという意見も出されたが、〇〇と南三陸町が一緒に取り組んでいくということが分かるようなネーミングにすればいいと思う。

2. 町の住まい・くらしの状況と課題について

- 一番の課題は住宅資金であり、70歳以前であれば融資申し込みができるが、入居時点で70歳を超えてしまうと融資を受けられないという状況がある。
- この場合、公営住宅に再申し込みをするようなことになり、高台移転の場所が空いてしまうことが心配であり、町にも対応を考えてもらいたい。
- 消費税が上がり、坪単価が高くなったため、予定よりも住宅再建資金が必要だという課題も見えてきた。
- 25世帯以上の団地にはコミュニティセンターができるが、25世帯以下にはなく、話し合う場所がないことも課題である。
- 高台移転にはこれから様々な問題が出てくると思うが、町にお願いして作ってもらっているため、自分たちも責任を持たなくてはいけない。
- 町の方でも、高台移転の問題に柔軟に対応できないことははっきりと言った方がいいかもしれない。できる範囲でどうすればいいかということ、皆で考えなくてはならないと思う。

3) 意見交換

1. 利用ルールについて

- ・利用状況に応じて、仮設運動広場から遠くの人にも使えるように、周知をどうすればいいのか考えておく必要があると思う。
- ・広報による周知だけでは見ない人もいるため、グラウンドゴルフをする人の仲間内で広く伝えて行ってもらった方がいいと思う。

2. 町の住まい・くらしの状況と課題について

- ・高台移転が進むと、高齢者や病気の人などの買い物弱者が増えてくると思う。その人達をフォローする一つのアイデアとして、町とスーパーが連携して移動販売車を定期的に巡回する環境が必要ではないか。
- ・これからIT時代が進んでくるので、高齢者の人達も簡単に町内の業者に連絡して、欲しいものを自宅に配達してもらえらるようなシステムも必要だと思う。
- ・今後、災害無料バスが廃止になってしまうため、他の地域にある100円バスのようなものを運行してもらい、子供たちには通学の時に乗ってもらうようにすれば、住民と子供たちのふれ合いや交流が盛んになると思う。
- ・志津川小学校では全員通学バスで通学しているが、バスの時間が全校一緒であるため、1年生の子供たちは2時過ぎに授業が終わって、4時まで教室で待っている状況にある。いずれ通学バスがなくなつた場合に、2時間半に1本など定期的にバスが運行されれば、子供たちの朝の活動や帰りの活動も変わってくると思う。
- ・融資が受けられないため、防集団地をやめて災害公営住宅をお願いすることはいつまでできるのか。防集団地は平成27年度あるいは28年度までに事業が完了するが、その時点で災害公営住宅に申し込んでもいいのか。
(町：持ち帰って返答する)
- ・今住んでいる仮設住宅には移動販売が来ているが、高台移転をしても引き続き来て欲しいとお願いしている。

3. 学識者委員・有識者委員の講評ととりまとめ

1) 三浦委員

- ・いろいろな課題や意見が出てくると思うが、行政の中で情報を共有しながら、途中の進行状況、経過も共有しながら住民の方々に説明していくことが必要だと思う。
- ・行政の縦割りを打開して、いろいろな問題を解決していくことが住民の大きな期待になると思う。
- ・買い物環境については、今後は宅配が有効ではないか。特に、一人暮らしの高齢者には、宅配と見守り隊を兼務してもらうことがいいのかなと思う。
- ・町の川のあり方をもう一度考えてもらい、防災や自然環境、そして景観を踏まえた中で議論して提案して頂きたい。

2) 平野副委員長

- ・志津川では、鮭のこともあり、多自然型の川づくりをしっかりとっていく必要性が極めて高いと思う。
- ・海岸部の団地では、皆さんが協力して協調した街並みができる建て方をすると思うが、それを保全する条例等の仕組みが必要である。
- ・住環境の問題は、居住地周辺のことから居住地とは直接関係のないことまで、多岐に渡ってくると思う。
- ・皆で伊里前を見に行くことで、高台移転が始まったらどのようなことが起きるのかを勉強する機会があってもいいと思う。
- ・女川町では、なるべく住民に分かりやすく情報提供しようと努力されている。岩沼の玉浦西地区では、コミュニティの形成をどうすればいいかを考えながら、住民の皆さんで話し合っって街区割を決めており、他の町を見に行くのもいいと思っている。
- ・このようなことを、志津川市街地の3つの大きな団地の設計の参考にさせてもらうことや、伊里前の状況を皆で共有することもいいのかなと、皆さんの話を受けて感じた。

3) 稲葉委員

- ・行政の縦割りの間を埋めるのが、この場所だということをつくづく感じた。
- ・家や店のこと、バスのことなど、それぞれ行政では担当があり、一つずつしか話が進まないかもしれないが、この場では、全部横につなげて話ができる気がした。
- ・今年度の後半になると思うが、出てきた課題をビジネスの手法で解決していくということを念頭に置いていけるといいと思った。
- ・移動販売や情報発信を、仕事がない人が仕事としてやってみてはどうか。すぐにはうまく行かないという心配もあるが、将来ビジネスにすることを見据えて、1年くらい仕事づくりの調査事業のようなかたちで実験していけるといいと感じた。

4) 宮原委員長

- ・稲葉さんと同じ意見である。バスの例では、小学校と一般の方たちのバスの折り合いをつけるということは、現実が分からないため、この場所以外でなかなか通らない。
- ・需要はあるが、その需要を上手に解決していく手法を持っていなかったこともあり、ここで出てきたお互いに便利になり、より良くなることは、なるべく実現していけるといいと思う。
- ・住民の方たちが主体的にやっていくことをしっかり持って、非常にいいスタートが切れたため、引き続き議論をして頂きたい。